

「のびのびキャンプ in 冬さんべ」

1 趣旨

母子家庭の親子を対象に、自然体験等の活動や読書活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、親子の親睦を深めるとともに、子供たちの基本的な生活習慣の確立を目指す。

2 事業の概要

(1) 期間

令和5年 1月28日(土)～29日(日) <1泊2日>

(2) 会場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 協力

島根県健康福祉部青少年家庭課

(4) 対象

母子家庭の親子

(5) 参加者

30人(12家族) ※募集20家族50人程度

(6) 日程・内容

時間	1月28日(土)	時間	1月29日(日)
11:30	はじまりの会・レクリエーション	6:30	起床
12:15	昼食(ビュッフェ)	7:30	朝食(ビュッフェ)
13:30	歩くスキー体験 (雨天時) ・ボルダリング体験 ・焼き板づくり	9:10	【母】カフェタイム 【子】お母さんへの色紙づくり 絵本専門士の先生との 絵本の時間
17:30	夕食(ビュッフェ)	10:30	【親子】群読の読み聞かせ
18:15	入浴	10:45	自由時間(雪遊び等)
19:30	絵本専門士の先生との 絵本の時間	12:00	昼食(ビュッフェ)
20:30	就寝	13:15	おわりの会
		14:00	退所

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

① 歩くスキー活動

- 過去の「のびのびキャンプ」に参加された方から「スキーがしたい」という声を多数いただき、冬の三瓶の魅力を感じて、しっかり楽しんでもらえる歩くスキーの活動を設定した。
- 総勢30人の参加者を4つのグループに分け、それぞれのグループに1人の研修指導員と1人の見守りスタッフを配置し、初めて歩くスキーをする方でも安心して活動できるよう安全管理を行った。

② 絵本専門士の先生との絵本の時間

- 近年、読書活動の重要性が認知されており、多くの親にとって「絵本」は関心があるものであると考え、親子で楽しめる読書活動を設定した。絵本専門士3人を講師とし、読み聞かせやアニメーションなどの手法を用いて体や頭を使う活動を組み合わせた読書活動を展開した。
- また、絵本専門士と運営スタッフで群読発表を行い、様々な読書活動の楽しさを体験してもらえるようにした。

- ・その他、会場にたくさんの絵本を置き、自由時間などに好きなタイミングで絵本が読める場を設定した。

③カフェタイム

- ・本事業では、母親のみが集まり、交流する「カフェタイム」の時間を毎回設定している。子供たちは別会場で活動を行い、その間母親たちは茶菓子を食べながら、ふだんの生活の様子や困っていること、他の母親に聞いてみたいことなど、ざくばらんに話ができる場として設定した。

④色紙づくり・色紙わたし

- ・母親がカフェタイムを行っている間、子供たちは母親へふだんの「ありがとうの気持ち」を伝えるための色紙づくりを行った。幼児も多くいたが、文字を書くことにこだわらず、絵を描くこともできるようにし、子供たちの創意工夫があふれる色紙づくりとなるようにした。最後の終わりの会で、サプライズとして、母親に色紙を渡してプレゼントできるようにした。

(2) 運営（連携）及び広報のポイント

- ・今年度も島根県健康福祉部青少年家庭課ひとり親支援グループと連携し、事業を行った。主に広報活動をお願いし、本事業のチラシや開催要項を島根県の全市町村に配布した。また、メールマガジン等などで本事業のお知らせを掲載していただき、多くの方に本事業の情報が届くようにした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	91.7	8.3	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	91.7	8.3	0	0
職員の対応	100	0	0	0

5 成果と課題

<成果>

- ・歩くスキーの活動では、「最高でした」「母も子も楽しめて大満足でした」という感想が聞かれたことから、多くの方が楽しく活動できたことが分かった。
- ・「たくさんのスタッフの方に見てもらい安心して子供と活動できた」というアンケート記述から、ふだん子供の活動を見守る親が一人だと、なかなか取り組みにくかったスキーの活動でも、多くのスタッフの見守りで、安心してもらいながら取り組めた。
- ・活動終了後も個別で絵本専門士の先生と話をするお母さんや、一緒に本を読んでいる親子が多く見られたことから、「読書」については多くの人の関心事項であることが改めて分かった。今後当所において、絵本専門士とともに、より一層読書活動を推進する事業を行っていきたいと考える。
- ・「体を動かしたり、心と頭を使ったりする活動がよく考えられていた」という感想が見られた。今回の活動では、「聞く」活動以外にも、アニメーション（スペインのモンセラット・サルと氏が考案した、読書の力を伸ばすプログラム）等で見られる手法も用いて、考えながら体を動かしたり声を出したりする活動を取り入れた。そのような点もお母さんより好評をいただくことができ、絵本の活動の面白さを体験する場を作ることができた。
- ・母親同士の交流の場としてのカフェタイムでは、1時間ほどの余裕のある時間の中で、しっかりとお話をする場を作ることができた。事業終了後には連絡先を交換するお母さん方も見られ、本事業を通して、新たなつながりもできた。

<課題>

- 事業実施日直前に、寒波の影響で多くの雪が積もった。そのため自家用車で当所に来ようとした家族や、バスの集合場所まで車で行こうとしていた家族が思うように移動できずキャンセルとなってしまった。冬の自然体験活動を行いたいという思いから、冬の開催としたが、冬開催だからこそ当所に行くにくいと感じる人が多くいることがわかった。これまでの当キャンプでも夏、秋、冬と様々な季節で開催してきたが、開催季節が偏らない配慮が必要だと感じた。
- アンケートの中には、「忙しい方向けに、1泊2日の午前中までのプランや、日帰りプランがあってもよい」という記述があった。より多くの方にとって来やすい事業とするためにも、日程についてはより検討していく必要があると感じる。

(担当：企画指導専門職付 中谷 康希)